

「第2回アジア美術館基本計画策定に関する有識者会議」議事概要

■魅力向上に向けた各施設のあり方

- ・各施設の役割を明確にし、それに応じた必要な機能を整理すると、伝わりやすく、優先順位もつき、具体的な機能も整理しやすい。また、連動した効果的な運営も期待できる。
- ・現館の調査研究機能は、蓄積してきた調査資料の保管に加え、新たな資料の集積、アーカイブ、ライブラリー機能等を充実させることが重要。これと連動した資料展示や、デジタル等を活用した展示も考えられる。
- ・現館の調査研究機能は、研究内容の公開スペースや海外・アジアの研究者の滞在拠点等として活用でき、拡充先での魅力的な展示を支えることで、市民へ還元し、国際的な存在感も示すことにも繋がるため、魅力ある素晴らしい研究施設になればよい。
- ・美術史の学科を持つような芸術系大学と提携して、大学生が勉強・研究しやすい常設のスペースが現館にあるのもよい。
- ・拡充先と現館に展示室があることで、福岡アジア美術トリエンナーレのような、求心力・話題性・祝祭性のある大規模な展覧会が両施設で開催できる。各施設の機能を明確に分け、特色を持たせることが重要であるが、2つの施設が共存することで、相乗効果が期待できる。
- ・近年劇的に変化するアジア美術の中で、福岡が存在感を示すには他国にはない独自性が必要であるが、現館と拡充先で併せて活動を充実させれば、他国にない求心力が持てるだろう。

■拡充先の施設整備の基本的な考え方

(建築と景観について)

- ・拡充先の地上部は、市民に親しまれる都心の公園で、そこに地下の美術館への入口を設けられるのは非常に良い条件で、入口をシンボリックにしたり、地下から地上へモニュメンタルなものを配置するなど工夫することで存在感を示し、視認性も高めることができる。
- ・美術館と地上の公園の雰囲気が一体化することが望ましく、公園の担当部署と連携して整備範囲を調整しつつ、美術館ができることによって、居心地の良い、文化的な雰囲気のある場所になればよいと思う。
- ・美術館の入口は、外光が入る広場のようなイメージで作るとよいのでは。美術館に無料で入れるスペースがあって、上の公園と下の美術館に誰でも行き来できるような形になればよいと思う。
- ・公園側からのアクセスを高めながらも、作品の保全管理の観点より、外部との動線をどこで分けるかは、十分に検討する必要がある。
- ・建築家の発想を取り入れることで非常に魅力的な空間になると思われる。駐車場から美術館への用途転換は話題性があり、設計手法次第では世界の建築家も関心を持つのでは。公園と地下を一体化したコンペ等を実施すると、建築家や公園の設計に携わる人にとっても魅力的な挑戦課題になると思う。
- ・今後の設計段階で美術館としての意図を伝えられるように、現段階でやりたいことを強いメッセージ性を持って整理し、設計要項に反映させていくことが望ましい。

(まちとの連動やソフト事業について)

- ・施設整備の基本的な考え方の項目は、ハードのデザインに影響していくと思うので、優先順位をつけて整理することが望ましい。既存構造物を活用してCO2排出を抑えるエコロジカルな観点と、公園と一体化して、文化的な環境を天神に広げる観点は重要。
- ・拡充先に美術館ができることで、周辺の文化度が上がり、まちの格を高める起爆剤となることを期待する。
- ・拡充先の周辺には、一般的なホールやカフェなどはあるため、それらを設ける場合は美術館活動に必要な機能、空間を整備するべき。
- ・「学び」や「出会い」を提供するには、事前にオンライン等を通じて、実際に美術館に行きたいと思わせるきっかけを提供することが重要。そして実際に来館した際には期待をさらに上回る体験を提供するといった、一連の流れをハードの整備とあわせて連動させるべき。

■アイデア収集の実施状況について

- ・今後は、市民などを対象に警固公園をどうしていきたいか、意見募集をして、まちの話題になるぐらい盛り上げていく必要があるのでは。
- ・周辺事業者や、同じまちで活動する人たちからもヒアリングしていった方がよい。